

事業者向け 放課後等デイサービス自己評価表

		チェック項目	事業所の状況
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	サッカー、教室プログラムともに定員に対して十分なスペースを確保している
	②	職員の配置数は適切であるか	法定職員数を満たしている。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	教室はバリアフリー化されていない。今後、改良、移転を検討していく。
業務改善	④	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	月一回の職員会議を行い、業務改善の話し合いを行っている。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	モニタリングの際に保護者の意向をきいている。保護者へのアンケートは未実施ではあるが今後実施していく。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	29 年度分を掲載。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	第三者評価を行っていない。30 年度以降、実施予定。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	研修計画を作成し、社内研修を実施。
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	面談を行い、アセスメントを実施し個別支援計画を作成している。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	アセスメントツールは使用していない。今後、事業所の現状に合ったアセスメントツールを作成していく。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	職員数が少ないためチームという形はとっていないが、職員間で話し合い立案している。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	サッカープログラム、英語プログラムともに様々な内容を組み合わせてオーガナイズしている。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	休日は基本的に休業。今後、休日プログラムの実施を検討。長期休暇に内容を変えることはしていない。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	子供の特性や力によってプログラム内容やチームの組み合わせを変更している。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	児童指導員間で打ち合わせをするようにしている。ただ、別業務からの職員合流で時間がなく打ち合わせが不十分なことがある。

⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	送迎が終了すると業務時間を超えていることが多く毎日に行っていない。気が付いたことがある時には共有している。
⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	毎日のプログラム内容を記録し、今後のプログラムの参考にしている。

	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	日常的に子供たちの話を聞くとともに、定期的に保護者との面談を行いモニタリングを行い、計画の変更、更新を行っている。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ、支援を行っているか	それぞれ違う目的を持った数種類のプログラムを実施している。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	セルフプランが多く、また川崎市、横浜市の相談支援はあまり機能していないらしくサービス担当者会議はほとんど開かれていない。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	こちらから保護者に学校の学習支援計画の提供を依頼すると提供してくれる保護者がいる程度で学校との情報共有は進んでいない。一部の特別支援学校では事業者との連絡会が行われるため参加している。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	現在の児童の中に医療的ケアが必要な子はいない。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	現状では不十分と言わざるを得ないが今後、連携を進めていきたいと考えている。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	いまだそのようなケースはないが、30年度に高等部卒業の子がいるため情報提供していきたいと考えている。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	連携はほとんどされていない。今後、関係づくりから始めていきたい。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	ほとんどの子供が通常の小学校の支援級に通っているため日常的に障害のない子供との活動の機会は持っている。事業所ではサッカーや英語などのプログラムの提供に特化している。
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	参加していない。支援業務に支障をきたさない範囲で参加していきたいと考えている。
㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	一日の最後にカードに指導員からのコメントを書くようにしている。保護者からのコメントを書けるようにしているが、活用数は少ない。	

	②⑨	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	現在、ペアレントトレーニングは行っていない。
保護者への説明責任等	③⑩	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	契約の際に説明を行っている。
	③⑪	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	面談の際に相談を受け、助言などを行っている。
	③⑫	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	今後、保護者のサロンを開けるように保護者の意向を聞いている。
	③⑬	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	苦情があった際には丁寧に対応し、記録に残している。契約の際に苦情対応窓口などの説明を行っている。
	③⑭	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	会報の発行は現在停止している。体制が整い次第、再開予定。
	③⑮	個人情報に十分注意しているか	個人情報にはカギがかかるキャビネットに保管し、パソコンにはパスワードをかけている。
	③⑯	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	子供たちとはそれぞれの特性に合わせてコミュニケーションをとっている。メールやファイルの連絡欄を活用している。
	③⑰	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	曜日ごとにプログラムが決まっているため行事などは行っていない。
	非常時等の対応	③⑱	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか
③⑲		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	現在、避難訓練は行っていない。今後、実施していく予定。
④①		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	虐待防止の事業所内研修を予定している。
④②		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	身体拘束が必要な可能性がある子供の保護者に対しては契約や面談などの際に説明している。計画に記入されているケースは今のところない。
④③		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	食品の提供は基本的に行っていないが、アレルギーの把握は契約の際に行っている。
④④		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	ヒヤリハット報告書を作成し、職員間で回覧している。